

3. 平成 30 年度ウミガラス保護増殖検討会 議事概要

◆日 時：平成 31 年 2 月 22 日（金） 14：00～16：00

◆場 所：札幌第一合同庁舎 10 階 共用第 3 会議室

◆出席者：配布資料参照

◆議事概要（※委員からの意見等）

議事 1. 平成 30 年度 ウミガラス保護増殖事業の実施状況

(1) ウミガラス保護増殖事業の実施報告

a. 羽幌～天売フェリー航路におけるウミガラス属の越冬期の個体数センサスの結果。

- ・1 回のセンサスで記録されたウミガラスの最大個体数は 6 羽。ハシブトウミガラスは確認できなかった。

※ 確認数の時期に言及するのなら、1 月単位ではなく 10 日間隔程度で取りまとめる。

b. ウミガラスの繁殖状況のモニタリング結果

- ・産卵に至ったのは 27 つがい、巣立ち雛数は 19 羽、飛来数は海上で 58 羽を確認した。つがい数、巣立ち雛数、飛来数は過去 20 年間で最多。

- ・育雛期間中に雛が隣の親鳥につつき殺される事例が 2 件発生した。

※ 数が増えてくると雛が隣の親鳥に攻撃される事例はよくある。

c. 捕食者対策の実施

- ・ハシブトガラス 44 羽とオオセグロカモメ 25 羽をエアライフルで捕獲した。
- ・ハシブトガラスの試行的巣落として、14 巣確認したうちの 10 巣（12 羽の雛と 2 個の卵）の巣落としを実施した。
- ・巣棚へのオオセグロカモメの飛来は確認されていない。ハシブトガラスの侵入は 19 回確認し（最後に残った雛 1 羽の捕食を確認）、今年の 16 回より増えている。

※ 最後に残った雛は、周囲に親も少なく防御もできないので捕食されやすい。

d. デコイの再設置

- ・汚れの酷いデコイとカラスの侵入に係るデコイの交換、新たなデコイの設置を実施した。

- ・繁殖巣棚内を採寸し、営巣可能数を推定した（最大で 72～81 つがいが営巣可能）。

※ 現在の使用している巣棚に 50 つがいぐらいまで増加するのであれば、将来デコイの除去もあり得る。

e. 普及啓発活動の紹介

(2) ケイマフリなどその他の海鳥の繁殖状況についての報告

a. ケイマフリの個体数調査結果

- ・2018 年の最大個体数は 409 羽で、2017 年と比べて 273 羽少ない。

- ・増減を繰り返しながら徐々に増加している。

※ 調査者の経験にもよるので、数字の傾向のみをもって増加というのは気をつけるべき。

※ 調査している人は経験不足とは考えられず、微増か急増かはわからないが過去に比べて増えているのでは。

b. ケイマフリの繁殖状況調査結果

- ・2018年は合計65巣を確認し、2017年と比べて15巣多い。

c. ウミネコ・オオセグロカモメ・ヒメウ・ウミウ・ウミスズメの繁殖状況

- ・ウミネコ、ヒメウ、ウミウの推定巣数は2017年よりも増加し、その他は減少。
- ・ウミスズメの個体数は249羽で、前回2016年の調査と比べて15羽少ない。

※ 2017年から、日中のウミスズメ出現個体数が減少しているのでは。

議事2. 平成31年度 ウミガラス保護増殖事業の実施計画（案）

- ・誘引対策、飛来・繁殖調査、捕食者対策を継続して実施する。捕食者対策については、ハシブトガラスの試行的な巣落とし作業を引き続き実施する。
- ・遺伝子分析のため残渣のサンプル（卵殻、羽）を回収し、葛西臨海水族園で保管している。比較分析のため、とくにサハリン由来の個体に関する文献を探したが見当たらなかった。
- ・葛西臨海水族園の助成金事業でカメラのハイビジョン化を実施する。

※ 水族園側で実施できるのはミトコンドリアDNA分析で、既存データがあれば、個体群データとの比較は出来るので、どのレベルまで行うのか方針を決めて頂きたい。

議事3. その他

(1) 海鳥保全に向けた葛西臨海水族園の取組みについて

a. ケイマフリの域外保全を目的とした繁殖生態調査の結果報告

- ・赤岩展望台の2巣に小型カメラを設置し、繁殖状況のモニタリングを実施した。
- ・抱卵初期にカメラの付替え作業を行ったため、抱卵放棄が発生した。
- ・放棄された2卵を回収した。抱卵中の様子から、ケイマフリの抱卵の行動は他種と異なることが推測された。

b. ケイマフリの域外保全を目的とした繁殖生態調査（案）

- ・抱卵中に巣に近づく作業は実施しないことを前提とし、来年度も繁殖状況のモニタリングを実施する。赤岩展望台に小型ビデオカメラ、ローソク岩に小型インターバルカメラを設置する
- ・抱卵放棄が起こった場合には卵を回収し、人工孵化、経過観察を実施する

※ ケイマフリが何の餌を食べているかも記録すると良い。

(2) 平成30年度 天売島のネコ対策の実施状況について

- ・平成30年度のノラネコ捕獲数は0匹。現在島内にいるノラネコの数10匹以下になっていると想定している。
- ・ネコに頼らないドブネズミ対策として、公共施設などでの捕獲作業、島民へのわなの無料貸し出しを行い、主に冬期の市街地でのドブネズミ対策を実施した。

※ 海鳥繁殖地の断崖沿いを歩くネコを数回見たが捕獲されていない。

これに対して羽幌町担当者から、通年の捕獲体制は整えているので、連絡をしていただければ捕獲するとの回答。

(3) 天売島におけるドブネズミ調査の報告

- ・ドブネズミの個体数密度は海鳥の繁殖期に海鳥繁殖地で高く、秋には集落で高くなる。餌資源に依存した季節移動を行っている可能性がある。
- ・ドブネズミの胃内容物からはウトウやウミネコが出ている。島内で繁殖する海鳥を捕食していることは確実であるが、繁殖個体群に対する影響の程度は不明である。
- ・ドブネズミの根絶を目指す必然性は高くない。モニタリングを継続し、急激な変化状況の悪化がみられた場合にすぐに対応出来る実施体制を整備する必要がある。
- ・情報を集約して共有できる体制と、現地でモニタリングを実施できる体制を作ることが必要である。

※ ドブネズミの生息密度や被害状況のモニタリングを行うためのマニュアルが必要。